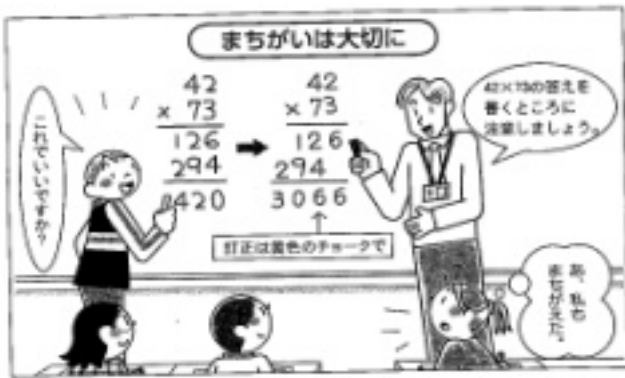


4月の新歓教研は甲斐真智子さん どの子も参加したくなる授業づくり

泉北教組の来年度新歓教研は、4月9日(土) 10時、和泉コメンで

行います。お話は甲斐真智子さん(元小学校教諭)で、主題は「授業づくり」。甲斐先生の著作を連載していますので、ぜひお話を聞きにきてください。連載4回目は「まちがった答え」が返ってきたときです。



考えがある人」って尋ねたりしていませんか。

まちがいをいやす、

まちがいに学ぶ

友だちの発言のあとに、子どもたちが大きな声で「せいかーい」とか「ブー」などと言う雰囲気はありませんか。「まちがった答えが出た」ときに教師や周りの友だちがどう対応するかで、クラス集団の力は大きく変わります。

「教室はまちがうところ

「まちがっていいよ」と言いながら、実際に「まちがいをいやす」「まちがいに学ぶ」ことにつなげるのは難しいものです。教師が授業観や子ども観をみがいたり、教材研究の力をつけたりして「まちがいに学ぶ」ゆとりの力をつけたいものです。

「まちがった答え」が発言されたとき、正解でもまちがいで

「どうしてそう思ったのですか」と尋ねるようにしましょう。「なぜそう答えたか」を聞くうちに、その答えの背景の考え方がわかります。質問を助成がいしていたり、質問の方があいまいだったためにまちがうこともありま。まちがうところは、自分の考えを詳しく話しているうちに、本人がまちがいに気づくことがあります。

「まちがった答え」

が黒板に書かれたとき、子どもが黒板に書いた答えは、みなで考え合う大切な教材です。まちがった答えを書いたとき、どうしてそうなったかを説明するうちに本人が矛盾に気づくことがあります。同じようなまちがいをする子が必ずいますから、たくさんの子どもたちがいっしょに納得する時間です。消してしまったり、赤

④



チョークで×をつけずに黄色のチョークで書いてねにまちがい直しをしてください。まちがいが大切にされたことが伝わります。

「まちがい」を
予測する力

「まちがった答え」は授業展開の伏線になるも

のが多いです。子どもはどのように考えるだろう、どんなまちがいをするだろうと予測する力をつけましょう。そうすればその「まちがい」の大切さに気づき、本当の学びにいかすことができます。

まちがうところほど、

学習のポイント

「正解!」と言うと、すっきりしたように感じかもしれませんが、授業はクイズではありません。子ども達の発現を「正解」

「まちがい」という2つに分けず、「どうしてそう思うの?」と聞いていくと思わぬ学びが広がっていきます。「一人のまちがい・勘違い」氷山の一角。一人まちがったら、同じようなまちがいをしている子や、どこがまちがっているのかもわからない子どもが必ずいます。まちがうところは、学習のポイントです。ゆっくりていねいに学び合う時間になってください。

(辺野古裁判)翁長知事の意見陳述④



次に基地経済と沖縄振興策について述べたいと思います。一般の国民もそうですが、多くの政治家も、「沖縄は基地で食べているんでしょう。だから基地を預かって振興策をもらったらいいますよ」と沖縄に投げかけます。この言葉は、「沖縄に過重な基地負担を強いていることへの免罪符」と「沖縄は振興策をもらっておきながら基地に反対する、沖縄は甘えるな」と言わんばかりです。これくらい真実と違い沖縄県民を傷つける言葉はありません。

米軍基地関連収入は、終戦直後にはGDPの約50%。基地で働くしか仕方がない時代でした。日本復帰時には約15%、最近約5%で推移しています。経済の面では、米軍基地の存在は今や沖縄経済発展の最大の阻害要因になっています。

例えば、那覇市の新都心地区、米軍の住宅地跡で215ヘクタールありますが、25年前に返還され、当時は軍用地料等の経済効果が52億円ありました。私が那覇市長になって15年前から区画整理を始め、現在の街ができました。経済効果としては52億円から1634億円と32倍、雇用は170名程度でしたが、今は1万6千名、約100倍です。税収は6億から199億円と33倍に増えています。

沖縄は基地経済で成り立っているというような話は今や過去のものとなり完全な誤解であります。

沖縄は他県に比べて莫大(ばくだい)な予算を政府からもらっている、だから基地は我慢しろという話もよく言われます。年末にマスコミ報道で沖縄の振興予算3千億円とか言われるため、多くの国民は47都道府県が一樣に国から予算をもらったところに沖縄だけさらに3千億円上乗せをもらっていると勘違いをしてしまっているのです。(つづく)

教職員の生活と権利を守るため、泉北教組に加入してください。